

横浜市大 厳しすぎた？進級要件

昨春、地方独立行政法人となった横浜市立大学（横浜市金沢区）の看板学部とされる国際総合科学部で、半数を超過する二年生がこのままでは三年への進級が難しい状態に陥っていることが八日、分かった。進級の要件として「英語運用能力テスト『TOEFL』五百点以上」が新たに設けられたため、大学側は「予想以上に厳しい状態」と頭を痛めている。

(横浜支局・木村留美)

2年生過半数 留年の危機に

同学部は昨年、商・国際のいずれかで、五百点のハードルをクリアしなければならぬ。TOEFLは、米国などの大学に留学する外国人大学生が授業についていける英語力を有しているか評価するためのテスト。横浜市大は、公立大として授業についていくために必要な点数」として要件に設定した。しかし五百点の壁は意外に高く、在学生からは「このままだと留年してしまう。措置に期待した教育そのものに疑問を投げかけられる声もあった。進級の要件を適用するかどうかを含め、今後検討していくなくては」と大量留年防止に頭を悩ませている。

国際総合科学部「TOEFL 500点」届かず

「このままだと留年してしまう。措置に期待した教育そのものに疑問を投げかけられる声もあった。進級の要件を適用するかどうかを含め、今後検討していくなくては」と大量留年防止に頭を悩ませている。

国際総合科学部

「TOEFL 500点」届かず